

評価計画				自己評価						学校関係者評価		次年度への改善策						
教育目標	教育目標達成のための指針	重点目標	目標達成のための方策	担当分掌	評価指標	目標値 [a] (昨年)	評価値 <定時> (昨年度)	評価値 <通信> (昨年度)	評価値 [b] (昨年度)	達成指数 [b/a]	評価 (昨年)		結果と課題の記述	評価	コメント			
調和のとれた感性豊かな人間の育成	自らを理解し主体的に学ぶ意欲を育てる	学力の向上 一人一人の学びを実現し、主体的に学ぶ態度を養う。	わかる学習指導の実践 ○授業の大切さを理解させる ○少人数指導・授業の工夫および改善 ○単位修得率の向上	教務	全講座の平均出席率(定時)	85%	73.5%	—	73.5%	86.5	B	今年度は年度当初あるいは途中から長期欠席になる生徒が多く、その割合が全学年次においては25% (昨年度15%) であり、なかでも1年次生においては32% (昨年度15%) であった。これが、講座の平均出席率に影響し数値が低下した。長期欠席をいかに学校に向かわせられるか今後の課題である。	B	・定時制と通信制の単位修得率の目標値を分けた方が良いのではないかと、 ・教員の協力のもと、「わかる授業」づくりあるいは「安心感の持てる授業」づくりを積極的に行い、生徒が安心して授業に出席し、学習できる環境づくりを進める。さらに、様々な機会を捉えて授業の大切さや授業に出席することの意義を伝え、意欲を高め、単位を修得した生徒の割合や図書館を利用しやすいと感じている生徒の割合が向上している。 ・授業公開期間では、学習指導要領の改訂を視野に入れ、各教科でテーマ等を設定して授業改善を行ってもらうなど、更なる授業力の向上を図る機会として充実させる。また、全ての教員が定時制、通信制の授業をそれぞれ1回以上見学するように発信や声掛けを実践する。	【教務】 <定時制> ・全教員の協力のもと、「わかる授業」づくりあるいは「安心感の持てる授業」づくりを積極的に行い、生徒が安心して授業に出席し、学習できる環境づくりを進める。さらに、様々な機会を捉えて授業の大切さや授業に出席することの意義を伝え、意欲を高め、単位を修得した生徒の割合や図書館を利用しやすいと感じている生徒の割合が向上している。 ・授業公開期間では、学習指導要領の改訂を視野に入れ、各教科でテーマ等を設定して授業改善を行ってもらうなど、更なる授業力の向上を図る機会として充実させる。また、全ての教員が定時制、通信制の授業をそれぞれ1回以上見学するように発信や声掛けを実践する。			
					少人数指導が自分に合っていると感じている生徒の割合(定時)	85%	92.7%	—	92.7%	109.0	A					本校定時制の特色の一つである「少人数指導」を期待して入学してくる生徒が非常に多い。それもあって、5年連続で目標値を大きく超えている。今後は、生徒がさらに少人数指導の良さを実感できるような指導方法を研究し実践することが課題である。		
					スクーリングやレポート添削の内容に満足している生徒の割合(通信)	85%	—	93.6%	93.6%	110.1	A					通信制のシステムがよく理解され、スクーリングやレポート作成をうまく連動させて学習できている結果と考えている。レポート添削の速さ、添削内容に対する満足感もあると思われる。満足している生徒の割合は高いが、レポート提出期限間に提出する生徒の数が少なくはない。計画的な学習をさせることが課題である。		
					単位を修得した生徒の割合	85%	—	+2.4	+2.4	107.3	A					【定時制】 少人数指導や「わかる授業」の実践により、生徒が安心して授業に臨める環境を整えたことが修得率の向上につながった。しかし、終盤になって欠課時数がかさみ、単位修得につながらない生徒も多くいるため、それらの生徒に対して修得につなげるための指導が課題である。 【通信制】 昨年と比較して、単位を修得した生徒の割合は高くなった。担任、科目担当の生徒への声掛けが効果的だった。単位修得が困難な生徒を早く見つけて指導をすることが課題である。		
					互見授業は授業改善に効果的だったとする教員の割合	80%	76.2%	68.7%	72.5%	85.2	B					本校では生徒の実態に即した授業を展開するために、「10の視点」を基本として互見授業を実施し授業力の向上を図ってきた。これまでノウハウも蓄積され、一定の成果をあげてきた。今後は、この取り組みがより効果的になるように実施方法等の改善が必要である。		
					読書意欲の喚起と利用促進 ○図書整備と資料の充実	図書研修	図書館を利用しやすいと感じている生徒の割合	70%	94.1%	98.4%	96.2%					137.5	A	生徒のマナーが良く、雰囲気も良くしている。また、日曜スクーリングの日に開館できたことで、通信制生徒もより利用しやすくなった。
		進路の実現 社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。	個々の進路実現に重点を置いた支援 ○ハローワーク、ジョブカフェ等と連携しての就職支援 ○面接指導、作文、小論文などの個別指導の徹底 ○通信制卒業予定生の個別支援の充実	進路	就職・進学など進路先を決定して卒業する生徒の割合	90%	100%	95.4%	96.6%	107.3	A	1/26現在、卒業予定者149人(定40・通109)中、進路決定者は116人で、進学決定者が54人(定19・通35)、就職決定者が46人(定17・通29)である。就職決定者の内訳は新規就職者26人(定15・通11)、既就職者とアルバイト継続20人(定2・通18)であるが、現時点での新規就職者の数は例年よりも増加した。また、進学・就職以外で、専業主婦や進学浪人、卒業目的などの者が16人(定1・通15)である。この時点で進路が決定している生徒の割合は年々上昇しており、進路を決定して卒業するという意識が高まっていることが伺える。一方で進路未決定者が33人(定3・通30)おり、現在も就職・進学の活動を支援しているところである。例年との比較では順調であるといえるが、特に就職において他校の状況と比べると出足の遅い生徒が多いこと、合格率が低い点が課題である。				A	・就職や進学の決定率の目標値は、1月末時点でのものではあるが、もしくは見込みを含んでのものではないか。 ・今年度までの大きな課題の一つが、進学・就職活動の出足が遅いことである。次年度は通信制においては進路状況報告会議を今年度まで年間1回(1月実施)だったのを、次年度は年3回(7月、10月、1月実施)として、それをもとに生徒の意識の向上を図る取り組みに努めていただくことを期待する。	
					進路学習や適切な進路指導を受けていると感じている生徒の割合	80%	82.5%	88.7%	85.6%	107.0	A							近年で最も高い評価であった。本校生徒の多様な進路志望に対して、担任をはじめとして、教員の進路指導が熱心になされたことが影響した。また以前と比較して学校が落ち着いており、そのため教員・生徒が進路活動に安心して向き合える環境が整ったことも背景にある。進路学習という面では、定時制のCCPIは昨年度から全教員で取り組むという形が定着し、様々な改良が加えられより実りのあるものになった。毎回取る生徒のアンケート結果でも高い評価を得ている。通信制の生徒に対しても、卒業予定生進路集会やステップアップウィークの行事や進路ガイダンスを通しての進路学習の機会を設けており、それらは計画通り実施できた。一方で、入学から卒業まで継続した、ひとりひとりの生徒への個別の進路指導体制については十分ではないことが課題である。
					就職・進学講座やステップアップウィーク等の進路に関する体験的な学習や講座は役立つと感じている生徒の割合	80%	89.2%	87.8%	88.5%	110.6	A							近年で最も高い評価であった。通信制では進学・就職別に「進路講座」を実施し、参加者を卒業予定に限ることはなかった。昨年度より期間が短くなったステップアップウィーク(企業見学、インターンシップ、進学・就職講座)も各年次ごとに充実した内容で実施することができた。インターンシップに行ってきたとする生徒、進学・就職講座やキャリアガイダンスが将来の参考になったとする生徒がともに90%を超えた。しかし、出席率が低い行事があったり、別対応が必要な生徒もおり、いかに生徒ひとりひとりの意欲の高まりを支援していくかが課題である。
					提供された進路情報や進路だよりは役立つと感じている生徒の割合	70%	81.6%	87.9%	84.8%	121.1	A							進路のしおり、進路だより、碧雲通信、掲示物、進路情報誌等での進路情報の提供をおこなった。CPや進路関係の各行事の様子を迅速にホームページで伝えた。また、個々の生徒の受験に必要な情報を近隣の高校からも取り寄せて受験指導に生かした。卒業予定生への受験用の情報が手厚い一方で、定時制、通信制とも低学年の生徒が将来を考えるための情報が手薄になっているのが課題である。
					70%	+5.8	+1.8	+3.8	115.6	A								
					70%	+6.9	+2.7	+4.8	130.7	A								

評価計画					自己評価						学校関係者評価		次年度への改善策							
教育目標	教育目標達成のための指針	重点目標	目標達成のための方策	担当分掌	評価指標	目標値 [a] (昨年)	評価値 <定時> (昨年度)	評価値 <通信> (昨年度)	評価値 [b] (昨年度)	達成指数 [b/a]	評価 (昨年)	結果と課題の記述		評価	コメント					
調和のとれた感性豊かな人間の育成	自然や文化を愛し、他の人を思いやる豊かな心を育てる	安全・安心の確保	人権・同和教育の推進と人権が尊重される環境づくり ○自己理解、他者理解を通じた自尊感情を育む指導 ○人権に関する知識理解と人権感覚の育成 ○いじめを許さない雰囲気づくりと組織的な対応	生徒	自尊感情をもつとともに他者を認め合うことが大切だと考えている生徒の割合	90%	87.8%	93.3%	90.5%	100.6	A	自尊感情や他者理解については、ほぼ昨年と同様に、肯定的な回答が90%を超えた。定時制においては、少人数での指導、通信制においては、担任による文書や電話による細やかな指導の効果が出ている。	A	いじめに関連しそうな案件は、どんな些細なことでもあってもきめ細かなフォローが重要と思われる。 ・何でも相談できる雰囲気作りの醸成が望まれる。 ・図書館が利用しやすい雰囲気である。月間でテーマや目標を設定して生徒に読書を促す工夫があってもいいのではないかと。	【生徒】 ・生徒一人ひとりを大切にする教育を一層すすめることにより、生徒自身が大切にされていると思えるような環境づくりをする。 ・生徒の実態に即し、単なる知識にとどまらず、行動におこせるような人権・同和教育LHRの教材開発をする。 ・生徒支援委員会(いじめ防止委員会)での、生徒の情報交換、共有の場において、いじめの早期発見につとめ、迅速に対応できる体制を整える。 【保健相談】 ・生徒の目線に立った身近な話題やタイムリーな情報を取り上げる。生徒が正しい知識や情報を得て、自分の事として生活に活用していけるように、発信の仕方も工夫していく。 ・保健相談部だよりは、できるだけ多くの生徒・保護者に読んでもらえるよう、定時制の欠席している生徒にも渡していただくお願いや家庭宛の発送書類にあわせて発行する等の手立てを考えていく。また、生徒の目につく場所にバックナンバーの掲示等をする。 ・必要に応じて、教育相談員やスクールサポーターが得た情報をルーム担任と共有したり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとルーム担任が協働する機会を設定したりすること等を通して、時機をとらえた生徒支援が行えるよう連携を密にしていきたい。					
					教育活動において、命や人権に関する学習が役立っていると考えている生徒の割合	80%	80%	85.4%	82.7%	103.4	A	定時制・通信制とも昨年より、肯定的な回答がやや下回ったが、目標値を超えることができた。昨年より下回ったのは、今年度LHRで取り扱ったテーマが、昨年と異なり、直接命に関わる内容でなかったことが影響した。また、通信制は、LHRや講演会は任意参加であるため、定時制に比べ学習が徹底しない。参加を促す手立てを講じる必要がある。								
					いかなる理由があってもいじめをしないことにしている生徒の割合	100%	95%	96.4%	95.7%	95.7	B	「いじめを許さない雰囲気づくり」を目標にかかげ、昨年度に引き続き、LHRや全校集会で指導を重ねている。年2回行う「いじめに関するアンケート」により実態把握する一方、定期的に開かれる生徒支援委員会をいじめ防止委員会としての機能も持たせ、いじめの早期発見に努めている。いじめもゼロではないが、いずれも収束に向かっている。100%ではないが、ほとんどの生徒が、「いじめをしないことにしている」と回答している。								
					保健相談部だより、メール、掲示物などによる健康に関する情報は、自分のからだや心のことを考える参考になると感じている生徒の割合	70%	83.8%	83.9%	83.8%	119.7	A	保健相談部だより、メール一斉配信、保健室前の掲示物等により、心身の健康に関する情報提供を行った。自分の健康に関することはもちろん、時機をとらえてタイムリーな話題を取り上げるようにした。特に、夏は熱中症、冬は感染症の予防に役立ててもらえたと思う。また、地震が起こったときには保健相談部だより号外を発行し災害によるストレスに対処する方法を記事にしたり、健康教育講座後には講座の内容に関わる記事を掲載した。年間を通じて継続的に発信することにより、生徒の心身の健康への関心喚起する結果となった。								
					保健相談	学校では、先生や教育相談員、スクールサポーターの人たちが、悩みや心身の健康について誠意をもって対応してくれていると感じている生徒の割合	70%	92.2%	87.2%	89.7%	128.2	A				教育相談員やスクールサポーターに対して、実際に関わっていただいている生徒は全体からすると少人数であるにもかかわらず、定時制でも通信制でもかなり高い評価が得られた。特に定時制では9割を超える生徒が誠意をもって対応してくれていると感じているという結果を得た。これは、教育相談員やスクールサポーターとの日々の振り返りや勤務記録簿を活用した情報の共有などで生徒の様子を継続的にとらえ、教育相談員・スクールサポーター・教職員が連携し、それぞれの立場から粘り強く生徒に関わってきた成果であると考えられる。そして、この相談事業、相談活動が定着してきた結果だともいえる。支援が必要な生徒があればその都度関係する教職員で情報を共有し、支援をしているが、今後はいかに早く支援体制を整えられるかが課題である。				
					図書研修	生徒1人当たりの年間貸出冊数	年10冊	6.0冊	—	6.0冊	60.0	C				生徒1人あたりの年間貸出冊数が10冊を超えている高校は、県内で2校しかない(H27)。読書意欲の喚起と利用促進という意味から、借りた冊数よりも、広汎に生徒が利用したかどうかを評価指標に入れることについて考える必要がある。				
		社会とのつながりの中で自ら考え行動し、自ら律する態度を育てる	自律・自立	基礎・基本を身に付け、自律・自立する態度を育てる。	体育・文化的行事と生徒会活動の充実	生徒	行事や活動を楽しむことができたとする生徒の割合	70%	75.6%	71.8%	73.7%	105.3				A	ポイントは若干下がったが、生徒たちは遠足やスポーツ祭、学園祭などの行事を概ね楽しむことができた。学園祭に関しては生徒数の減少から、催し物の数を減らし見直しを図った。また新規に「学園祭実行委員会」を設け、生徒会を中心に生徒の主体的活動を促した。生徒会長をはじめ、通信制の生徒も生徒会に加入し、定通協力して活動に広がりを見せているが、今後も両課程の生徒がより参加しやすく、楽しめる行事にしていくことが課題である。	A	・生徒会に関しても定時制、通信制ともに参加しての活動がされている。今後とも学校側の支援をお願いしたい。 ・生徒の自主性も育まれていると感じる。 ・生徒のボランティア活動が地域の方々にはわかるように「公民館だより」などに掲載してはどうか。 ・メール配信のシステムがあるのなら、年に1、2回は配信の際に返信する訓練をしても良いのではないかと。企業などでは導入しているところもあるが、生徒のリテラシーを育成するためには必要であると思う。 【保健相談】 ・ごみの持ち帰りを当り前のこととして、また、平素の清掃活動や大掃除を通して、校舎をきれいに大切に使うこととする生徒の環境美化意識、態度がさらに高まるように、今後も生徒への声かけや指導を繰り返していきたい。	
							全教職員によるルール・マナー指導の徹底 ○校舎内外のパトロールの実施 ○「あいさつ運動」の実施	挨拶ができ、ルールやマナーを守っていると自覚している生徒の割合	80%	81.7%	82.2%	82.0%				102.5	A			生徒の自己評価からの評価値は上昇した。生徒自身は社会や学校のルールを守り、挨拶をしていると考えている生徒が多い。確かに以前に比べて生徒指導上の大きな問題は減少しており、教職員によるマナーアップ運動(あいさつ運動・巡回指導)の回数も減らすことができた。しかし、校内外でのルール遵守やマナーの面など、決して十分とは言えない状況であり、今後も引き続き本校の課題である。
							ボランティア活動の奨励 ○各種ボランティア活動(学習)の実施、外部ボランティアの奨励	ボランティア活動(学習)に参加している生徒の割合(定時)	80%	64.8%	—	64.8%				80.9	B			生徒会を中心とした「宍道駅清掃ボランティア」や定時制LHR時に学年別にボランティア活動(学習)を企画した。また外部からのボランティア活動の案内も積極的に行った。評価値は大きく下がっているが、実際には定時制生徒はボランティアのLHRに約8割の生徒が参加している。にもかかわらずアンケートに反映されていないのは、主旨を理解していなかったり、アンケートの問い方にも問題があった。一方、外部ボランティアへの参加はごくわずかで、いかにボランティアへの意識を高めていくか課題である。
							環境衛生及び環境美化に取り組む意識・態度の育成 ○平素の清掃・大掃除の指導 ○ごみの持ち帰り指導	平素の清掃や大掃除にとり組み、ごみの持ち帰りを守っている生徒の割合	80%	90.2%	92.0%	91.1%				113.9	A			平素の清掃や大掃除に取り組むことにより、学校をきれいに維持していこうとする生徒の意識は高い。平素の清掃はSHR後の短時間であり、大掃除も年に2回という限られた回数ではあるが、熱心に取り組んでいる様子がうかがえる。大半の生徒がごみの持ち帰りを守っているにもかかわらず、一方では個人ロッカーの周りや棚の上、自動販売機横のごみ箱に校外から持ち込まれたごみが捨ててあったり、清掃中に廊下に置いてあるごみ箱の中にビニール袋に入ったごみが捨てられていることもあり、徹底されているとはいえない。生徒の環境美化意識、態度を高めていくことが今後の課題である。
							様々な情報の提供 ○メール一斉配信システムの管理・運用・促進	提供されるメール情報を役に立つと感じている生徒の割合	75%	91.7%	76.4%	84.0%				112.0	A			昨年度と同様に、高い評価を得ることができた。昨年度は、分掌ごとに発信頻度が異なっていたので年度初めや途中で過去の利活用データを伝え、利用の働きかけをした結果、昨年度よりも多くの内容のメールを発信することができた。また、担任と協力し、未登録者に対して、登録をしっかりと促すことに力を入れた結果、70%以上の登録率は維持できた。今後も継続して促していく必要がある。アドレス変更などした生徒への素早い対応が課題である。
							地域との連携及び地域貢献			地域の人々との交流と学校施設の開放 ○宍道公民館との連携を図る	総務	地域交流活動の年間実施回数				40回	33回			33回
施設の開放	15件	21件	21件	140.0	A	地域以外の団体によるグラウンドや体育館の利用はなかった。「学校の施設が利用できる」ということがあまり知られていないとすれば、広報の仕方が課題となるが、まずは地元の方々に知ってもらう必要がある。														
地域の方々への学校図書館の開放 ○地域向け「図書館だより」の内容充実	地域の方々の平均図書館利用回数	10人(月)	11人	11人	110.0	A						毎月1回、地域向けの図書館だよりを発行し、HPにも掲載している。次年度も継続する。								
10人(月)	-3.0	-3.0	140.0	A																